

施政方針説明要旨



3月定例会

令和8年（2026年）2月24日

令和 8 年 3 月定例会において、令和 7 年度補正予算案および令和 8 年度予算案ならびにこれに関連する諸議案を提出し、ご審議いただくにあたり、私の市政運営に関する所信を申し上げます。

私たちの暮らしを取り巻く経済情勢は、緩やかに回復していると言われていています。しかし、賃金の伸びが物価の上昇に追いついておらず、日々の暮らしの中での実感としてはまだまだ厳しい状況にあります。目下の物価高騰に対しては、市として速やかに対策を講じており、市民の皆さんの暮らしをしっかりと支え、地域経済の好循環につなげてまいります。

昨年をふりかえりますと、4 月に府内の中核市として初めて児童相談所を設置しました。子ども・子育ての相談支援を担うはぐくみセンターと両輪で、豊中の子どもは豊中でしっかりと守り育てていくことを基本に、地域のみなさんと一緒になって、子どもの成長に合わせた切れめのない支援を提供しています。

8 月に一部開園した豊中つばさ公園「m a - z i k a」は、連日多くの方々にお越しいただいております、豊中の新しい名所となっています。

南部地域では、2校目の義務教育学校となる庄内よつば学園がいよいよ今年4月に開校します。また、旧庄内さくら学園中学校跡地の活用事業者が決定しました。スポーツ施設やスーパーマーケット、飲食施設、子ども関連施設を備えた新たなランドマークが、令和10年にオープン予定です。南部地域が、さらに便利で暮らしやすいまちに進化していきます。

千里中央エリアは、新たな「せんちゅう」に向けて、都市格にふさわしい魅力ある商業施設やオフィスを誘致するため、大規模な補助制度を設けました。民間投資の呼び込みと合わせて千里東町公園と千里中央公園を都会のオアシスとしてリニューアルしていきます。

まさに今、南北それぞれのエリアから、まち全体が大きく変わろうとしています。

若い世代の皆さんの活躍も光りました。

大阪・関西万博では、ギネス世界記録へのチャレンジとして、市内の小・中学校、高校から12校がマーチングバンドに、また、小学生5人がホイール縄跳びに挑戦し、いずれも見事に達成されました。さらに、本市の高校生がインターハイや国民スポーツ大会など、全国レベルの大会での優勝という、輝かしく

嬉しいニュースが続きました。

さて、今年、本市は市制施行90周年の節目を迎えます。豊中の礎を築かれた先人の努力に思いを致すとともに、今日まで、地域の発展に尽くしてこられた市民や事業者のみなさまにあらためて敬意を表します。

長年にわたり継承されてきた歴史や文化、市民の誇りを、次世代にしっかりとつなぎ、豊中をさらに発展させていくことが、私の使命であると考えています。

私は、市長就任以来、「創る改革」を市政運営の基本理念に据え、市民の皆さんとお約束した公約を実現するための基本政策の推進に、全身全霊を傾けて取り組んでまいりました。

これまでの主な取組みと成果を、基本政策の六つの柱ごとに振り返りますと、まず、「健やかに育ち、楽しく学ぶことができるまち」として、一人ひとりが望む家庭生活や働き方を選択し、安心して子どもを産み育てられる豊中ならではの環境づくりに取り組んでまいりました。第2子以降の保育料の無償化や、いわゆる「小1の壁」を無くすための朝7時からの小学校の校門開放、子どもの居場所の拡充など、一人ひとりの子ども・家

庭の状況やニーズに応じた支援を行っています。小・中学校においては、豊中版教育無償化として修学旅行費や教材費など義務教育9年間で約24万円の保護者負担費を無償化したのをはじめ、小学校の給食費無償化を今年1月から開始しています。また、市有地への中学校給食工場の誘致にあたり、不動産証券化の手法を全国で初めて導入しました。これにより、令和10年1月から市内で調理した温かい中学校給食を提供できるようになります。このほか、すべての学校体育館にエアコンを設置しました。中央図書館については、市民の利益を総合的に判断し、曽根駅前の民有地を第一候補地として進めてきた協議を打ち切り、現在、豊島公園内での整備について検討を進めています。

二つめに、「安全、安心に暮らせるまち」として、全国各地で頻発する自然災害の教訓を踏まえ、避難所の環境を改善するため、簡易ベッドやトイレ、テントなどの備蓄を増強したのをはじめ、本年にはトイレトラックも導入します。災害対応ドローン隊「K I T E（カイト）」の新設や、地域の安否確認や避難者情報のデジタル化など、防災DXを進め、災害時に、より迅速・的確に対応できる仕組みを強化しました。また、子どもたちの

登下校の安全確保や防犯対策として、見守りカメラを218台増設しました。

三つめに、「選んでもらえるまち」として、南部地域の活性化に向け、豊中市初の義務教育学校・庄内さくら学園と庄内コラボセンターの開設、都市計画道路・穂積菰江線の整備など、公共施設や都市インフラに重点的に投資してきました。その成果は、未就学児の人口増加率および路線価の上昇という実績となって現れています。千里中央エリアについても、千里中央公園のリニューアル第一弾として民間活力によりイタリアンカフェを設置したのをはじめ、千里中央地区活性化基本計画の実現に向けて、官民連携で次代の都市拠点として生まれ変わらせるため、市制施行以来最大となる70億円の補助制度を創設しました。このほか、服部天神駅前広場の整備や花いっぱい大作戦の展開など、魅力ある都市空間づくりを進めました。

四つめに、「いきいきと暮らせるまち」として、地域包括ケアシステムを深化し、分野を超えた多機関連携による重層的な相談支援体制を強化しました。介護人材確保・定着のための大規模な補助制度の創設や、ICTを活用した高齢者の見守りサー

ビスの導入、帯状疱疹ワクチンの接種費用の助成も行いました。また、不妊治療費の助成や市立豊中病院での無痛分娩の導入、産後ケアの拡充など、妊娠前からの切れめのない支援を充実し、誰もが住み慣れた地域で健やかに安心して暮らせる環境を整えました。さらに、この年末年始にはインフルエンザの流行に備えて、医師会や薬剤師会など関係機関のみなさんのご協力のもと、毎日10か所の薬局を開けていただき、市立豊中病院でオンライン診療を行いました。利用された方からは、非常に助かったとの高い評価をいただいています。

五つめに、「魅力と活力あふれるまち」として、本市独自のデジタル地域通貨・マチカネポイントを導入しました。プレミアム付きデジタル商品券の発行やポイントの付与・還元により、市内の消費を喚起し、地域の中での経済の循環を高めています。マチカネポイントアプリのダウンロード数は16万7千件を超えており、多くの人にご利用いただいています。また、豊中ローズ球場の大規模改修、高校野球発祥の地・豊中ミュージアムの開設、豊中つばさ公園「m a - z i k a」の一部開園など、本市の魅力を体感できる場を整備するとともに、姉妹都市・サンマテオ市や兄弟都市・沖縄市との交流により、友好を深めて

きました。

最後に六つめ、「持続的で豊かなまち」として、デジタルを徹底的に活用し、行政手続きの100%オンライン化を実現したのをはじめ、市からのお知らせのパーソナル配信や「書かない窓口」の導入など、行政サービスをさらに便利に、使いやすく進化させました。また、4年間で企業や大学、民間団体と74件の連携協定を結び、例えば家庭の廃食油を航空燃料にリサイクルする取組みなど、市政に民間の発想や考え方を取り入れながら、新たな価値やサービスの創出に取り組んできました。

これら基本政策の進捗率といたしましては、4年間を通して98%となる見込みです。

2年ごとに実施している市民意識調査では、豊中に住み続けたいと思う割合が85%を超える高い水準を維持しています。特に今年度の調査においては、子育てと教育・保育環境に対する満足度が前回よりも2ポイント以上、上昇しており、こども政策に重点的に投資してきたことが評価されているものと受けとめています。

また、この間の財政状況を見ますと、令和7年度の市税収入

は28年ぶりに過去最大を更新する見込みであり、財政調整基金の積み立て額や市債の残高も良好な水準にあり、未来にツケを残さない安定的な財政運営を確実に推進しています。

これまで着実に市政を進めることができましたのは、ひとえに市議会や市民のみなさまのご理解とご支援の賜物であり、あらためて心よりお礼を申し上げます。

令和8年度予算につきましては、市長改選期にあたるため、当初予算は骨格予算としています。経営戦略方針にお示ししている三つのプロジェクトについては、いずれも順調に取組みを進めており、これら継続的な事業については、中断を招くことのないよう、当初から必要な予算措置を講じることとしています。

まず、取組みの核となる「子育てしやすさNO.1プロジェクト」については、蛍池駅西側の旧起業チャレンジセンター跡地に、令和9年1月、里親支援センターと児童家庭支援センターを新たに開所します。社会的養育が必要な子どもの安全・安心を守る役割を担う両センターが、それぞれの専門性を活かしながら連携するという先進的な取組みであり、日本財団による

建設費全額の支援をいただき、整備を進めています。また、子育ての不安や負担感をやわらげるため、生成AIを活用した子育て相談のチャットボットを導入し、保護者が24時間いつでも必要とする支援やサービスを見つけやすくします。

二つめの「快適・にぎわい・憩い空間づくりプロジェクト」については、千里中央エリアを次代の都市拠点として生まれ変わらせるため、建設工事に対する70億円の補助制度に加えて、商業施設・オフィスビルの立地に対し10年間で最大20億円となる奨励制度を設け、民間の投資を大胆に後押しします。また、ふれあい緑地の街区全体の回遊性を高め、活性化するため、飲食施設を誘致するとともに、屋根付き広場と子どもが楽しめるふわふわドームを整備するほか、ボールパークを本格展開します。

三つめの「とよなかエコシステム推進プロジェクト」については、千里中央地区や大阪空港駅周辺などへの宿泊施設の立地を促進し、広域から多様な人が訪れる、エリア全体の魅力と賑わいを創出します。本社機能や地域特性・市民ニーズを踏まえた事業者の立地を促進し、本市経済の活性化につなげます。ま

た、大阪大学、りそな銀行との公民学連携により、企業版ふるさと納税を活用した大阪大学発スタートアップ支援に取り組み、共創による新たな価値やサービスの創出をめざします。

このほか、まちづくりの基本的な指針となる新たな総合計画および都市計画マスタープランの策定に向けた取組みを進めます。

変化の激しい現代社会においては、変えないこと、変わらないことがリスクとなります。変化を正しくとらえる現状認識、前例や慣例にとらわれない新たな発想、古いものを新しいものに変革していく飽くなき挑戦、すなわち「創造的破壊」が、発展・成長の原動力となります。行政が自ら変化し、時勢やニーズに迅速かつ柔軟に対応し、市民の信頼に応えてまいります。

市政運営にあたっては、平和主義、民主主義、基本的人権の尊重という憲法の理念や自治基本条例の原則にのっとり、柔軟な発想と行動力、都市経営の視点をもって進めます。

以上の施策を含めた令和8年度の予算規模としましては、

一 般 会 計	2, 0 6 9 億	4, 6 7 1 万 9 千 円
特 別 会 計	9 4 1 億	8, 5 4 2 万 6 千 円
病 院 事 業 会 計	2 9 0 億	7, 9 4 8 万 6 千 円
水 道 事 業 会 計	1 3 4 億	4, 5 0 1 万 8 千 円
公 共 下 水 道 事 業 会 計	2 4 3 億	8, 1 3 0 万 3 千 円
合 計	3, 6 8 0 億	3, 7 9 5 万 2 千 円

で、前年度予算と比べまして、全会計では0.35%減、一般会計では0.27%減となっています。

それでは、基本政策の六つの柱にそって、主な内容につきまして、順次ご説明を申し上げます。

子育て・教育〔健やかに育ち、楽しく学ぶことができるまちとよなか〕

まず、「健やかに育ち、楽しく学ぶことができるまち とよなか」です。

「子育てしやすさNO. 1プロジェクト」の取組みについて、さらなる高みをめざして進めてまいります。

「小1の壁」の解消に向けては、放課後こどもクラブの入会要件を緩和し、こども園と統一するとともに、1室あたりの児童数、概ね40人に向けて、引き続き良好なクラブ環境を整えていきます。

また、保護者が時間と心にゆとりをもって子育てできるよう、こども誰でも通園制度を10園で実施するほか、新たに立ち上げた子育てポータルサイトを充実させ、家事・育児の支援サービスや相談窓口、各種の手続きなど、子育てに関するさまざまな情報をよりわかりやすく提供します。

教育の質・機会をさらに充実させる取組みとしては、学校や放課後等の学習状況を一元的にマネジメントする教育ダッシュボードをすべての小・中学校に展開し、子どもたち一人

ひとりの学習状況に合わせた、よりきめ細やかな支援や指導を行います。

また、誰ひとり取り残さない学びへのアクセスを確保するため、学びの多様化学校「彩葉（いろは）中学校」の令和9年4月の開校に向けた整備を進めます。

子ども・子育てをまるごと支援する取組みとしては、待機児童解消に向けて、新たに保育施設を2園、開園するとともに、既存施設の増改築や認定こども園への移行促進、保育士助成金による人材確保により、さらなる保育定員の確保を確実に進めます。

産後の心身不安をやわらげる産後ケアについては、アウトリーチ型のサービスを導入します。加えて、子育て世帯が身近に頼れる居場所として、「マイ子育てひろば」をすべての小学校区に設置するほか、厳しい家庭環境にある子どもを見守り支える児童育成支援拠点や豊中型認定居場所を、すべての中学校区に設けるなど、地域における包括的な見守り支援のネットワークを強化します。

これらの取組みに加え、4月からも小学校給食費を無償と

するほか、子どもたちの学びの環境づくりとして、今年4月に、2校目の義務教育学校「庄内よつば学園」の開校、また、北丘・東丘の両小学校と第八中学校において、義務教育9年間をとおした授業カリキュラムを進める学園制を新たに導入し、「千里わかば学園」としてスタートします。

災害・感染症対策〔安全、安心に暮らせるまち とよなか〕

次に、「安全、安心に暮らせるまち とよなか」です。

昨年、南海トラフ地震の被害想定や発生確率が見直されました。全国各地で地震や豪雨による災害が頻発し、被害が激甚化していることを踏まえ、本市の地域防災計画の改定を進めるほか、衛星通信サービス（スターリンク）や災害用の入浴設備の導入、医療用ポータブル電源など福祉避難所特有の物資の備蓄強化など、市民の皆さんの生命と財産を守る備えを一層充実します。

昨年、自転車での転倒により、お亡くなりになられた事故が豊中でも発生しました。救える命をしっかりと守るため、自転車用ヘルメット購入の補助制度を設けます。

救急・消防については、救急車の計画的な更新や、救急救命士の24時間配置を活かした市立豊中病院との一層の連携と技能の向上など、救命力の強化に取り組むとともに、マイナンバーカードにより傷病者の医療情報を把握するマイナ救急を推進します。

また、市民や事業者の皆さんが散歩や清掃活動などを行う際に、地域の見守りの視点を加えて活動いただく“ながら防犯”を支援することにより、地域全体の防犯力を高めます。

上下水道事業については、計画的に施設の改築更新と長寿命化を進めるとともに、水道施設の維持管理において、人工衛星を活用した漏水調査を導入します。

病院事業については、経営改革を徹底し、地域の診療所や薬局と連携して地域医療をしっかりと支えるとともに、小児・周産期医療や、がん診療をはじめとする高度専門医療、緊急症例への対応など、より質の高い医療を提供します。

まちづくり〔選んでもらえるまち とよなか〕

次に、「選んでもらえるまち とよなか」です。

「快適・賑わい・憩い空間づくりプロジェクト」として、駅周辺や公園、歩行空間を大胆に変えていくことで、良好な住環境にさらに磨きをかけ、豊中ブランドの価値を高めま

す。

千里中央地区では、質の高い魅力ある都市機能の導入を促し、未来志向の、まさに北部大阪の都市拠点にふさわしいまちへ大リニューアルします。千里東町公園の改革第一弾として、インクルーシブ遊具のある乳幼児向け広場を新たに整備

します。

南部地域においては、民間活力により旧庄内さくら学園中学校跡地の整備を進めるとともに、旧野田小跡地の利活用事業者の選定を行うなど、引き続き、地域全体の魅力づくりと活性化に取り組みます。

曾根駅周辺については、多世代が集い賑わう、エリア全体のまちづくりに向けて、豊島公園の大改革と中央図書館整備の検討も含めて、市民や事業者の皆さんと対話を重ねながら

取組みを進めます。

豊中・岡町駅周辺では、豊中駅周辺地区整備の基本計画の策定や、地域のまちづくり活動の支援など、魅力ある都市拠点の形成を推進します。

服部緑地から大阪国際空港までの東西軸については、豊中つばさ公園「m a - z i k a」に、大屋根付きマルシェ広場や遊具広場、飲食施設などを整備し、令和9年3月に全面オープンします。空港のあるまちならではの新名所を、より多くの方々に、思い思いの楽しみ方で快適にご利用いただけるようになります。

次に、快適な移動空間を充実させるために、乗合タクシー「M i n a N o t t e（みなのって）」を、西部・南部に加え北部地域でも運行するほか、保護者が、子育て施設まで安全で快適に子どもの送迎ができる「こどもの安心送迎ルート」の整備を進めます。

地域の公園については、小学校区に一つのボールパーク設

置に向け段階的に整備を進めるほか、利用ニーズや地域特性に応じた機能の拡充や、バリアフリー化・遊具更新に合わせた魅力向上に取り組めます。

また、ゼロカーボンシティの実現に向け、新たに脱炭素経営に取り組む事業者を伴走支援するとともに、そのネットワークづくりを進めます。

健康・共生〔いきいきと暮らせるまち とよなか〕

次に、「いきいきと暮らせるまち とよなか」です。

市民一人ひとりが、住み慣れた地域で、健やかに安心して暮らし続けられるまちづくりを進めます。

女性支援については、居場所を提供する民間団体への補助制度を創設するとともに、すてっぷに女性活躍の推進拠点を設け、ワンストップで就労や起業の支援を行います。

デジタル技術を活用し、現場の生産性向上や従事者の負担軽減に取り組む事業者に対し、介護のさらなるDXを支援するなど、介護サービスの質の向上に取り組めます。

健康医療については、4月から、RSウイルスワクチンが定期接種に追加されることから、対象となる妊婦の接種を無償で実施します。

地域交流の場づくりとして、介護予防センターなどの公共施設を、様々な世代が集まり、交流し、過ごすことができる施設に発展的に転換していく取組みを、引き続き地域のみなさんと対話しながら進めます。

魅力活力・躍進〔魅力と活力あふれるまち とよなか〕

次に、「魅力と活力あふれるまち とよなか」です。

本市の地域特性を活かし、地域経済を活性化させる「とよなかエコシステム推進プロジェクト」により、まちの発展・成長につなげます。

新たに創設したさまざまな奨励・補助制度により、都市拠点となるエリアに民間投資を呼び込み、本市経済の活性化につなげます。

また、公民連携によるスタートアップ支援等を通じて、地域

経済とのマッチングを図るほか、旧島田小学校の校舎を改修し、一部を産業振興施設として活用します。

スポーツをより広く楽しんでもらえるよう、民間活力により体育館のトレーニング機器を刷新します。また、体育施設の稼働日数を拡大するほか、新たに整備した学校体育館のエアコン使用に対する補助制度を設けます。

市制施行90周年を記念し、箕面自由学園高校と梅花高校のチアリーディング部の皆さんに、“チアのまち”をアピールするアンバサダーとして活動いただくとともに、子どもたちと日本センチュリー交響楽団の演奏を披露するなど、多くの市民のみなさんとともに祝う式典を執り行います。

変革〔持続的で豊かなまち とよなか〕

最後に、「持続的で豊かなまち とよなか」です。

デジタル技術や民間資源の活用、事務のアップデートにより、時代の変化に合わせた市民サービスや事業手法を生み出していきます。

申請等の受付から手続きの完了までを一貫してオンライン上で行うデジタル手続きや、パーソナル配信を拡充し、行政手続きの利便性をさらに向上します。加えて、市役所本庁舎にスマートフォンを導入し、柔軟な働き方による生産性向上と災害時の機動力ある対応を推進するとともに、音声アナウンスや通話録音機能を活用し、サービス向上やカスタマーハラスメント防止に向けた取組みも進めます。

また、令和6年度決算が一部不認定となった事態を大変重く受け止めています。強い危機感を持って、事務の適正な執行を確保する内部統制を強化し、前例や慣習にとらわれることなく、積極果敢にチャレンジしていく組織風土を醸成します。

公民学連携については、専門的な技術やノウハウを持つ民間の副業・兼業人材の活用を進めるとともに、市が課題を提示して民間と連携して解決をめざすリバーズピッチを開催するなど、様々な企業や大学等との共創をさらに進めます。

人材戦略については、就職氷河期世代や公務員経験者な

ど、多様な人材を対象とした職員採用試験を実施し、優秀な人材を確保します。また、未来を担う人材の確保・育成のための新たな人材戦略を策定します。

また、SNSや動画を活かした“魅せる”情報発信を充実するとともに、市民と行政のコミュニケーションのさらなる強化に向け、新たな広報戦略を策定します。

財源の創出にあたっては、「創る改革」を基本に、ビルド・アンド・スクラップを徹底するとともに、ふるさと納税やクラウドファンディングによる歳入の拡大をはじめ、学校跡地への民間活力導入など市有資産の有効活用に新たな発想をもって取り組みます。

以上、極めて概括的ではありますが、基本政策の六つの柱ごとに内容を説明させていただきました。

本日、ご提案いたしました予算案およびその他の諸議案につきまして、関係職員からご説明いたしますので、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。

この機会をお借りいたしまして、次期市長選挙に対する私の思いと決意の一端を述べさせていただきます。

私は、「創る改革」を基本理念に、2期8年にわたり豊中市のリーダーとして、この素晴らしい豊中を未来につなぐため、まちの発展・成長と市民の皆様の幸せの向上に、全力を尽くしてまいりました。

2期目においては、特に「子育てしやすさNo.1」を掲げ、子どもとその家庭を全力でサポートする取組み。公園・歩行空間・駅周辺エリア・公共施設について、単に用事を済ませるだけではなく、そこにいるだけで心が休まる・潤う場に変えていく取組み。民間投資を呼び込み地域経済を元気にする取組み。これら3つの取組みへの重点的な投資を行ってきました。

これらはすべて「未来への投資」です。

未来への投資は、都市経営の戦略に基づき、市の内部から湧き上がる活力と外部から取り込む活力を重ね合あわせ、発展・成長の好循環を生み出そうとするものです。

こうした未来への投資を確実に実行するため、徹底的な改

革もあわせて行ってきました。

将来を見据えた財政調整基金への積立や市債残高の管理など、未来につけを残さない責任ある財政運営を進めてまいりました。また、民間との共創、DX、既成概念にとらわれない歳入確保、市有資産の有効活用など様々な改革により財源を創出しています。

私は、常に現状打破の姿勢で取り組むとともに、未来への投資を進めなければならないと痛感しています。

市の調査では、市民の皆様から「住み続けたいまち」として、この間、高い評価を得ています。

これまでの取組みを土台とし、『創る改革』をさらに「シンカ」させることにより、動き出した変化の波を止めることなく、さらに上のステージをめざし、豊中で暮らす・過ごす満足度を高めてまいります。

また、私は、常に未来のとよなかを担う子どもや若者を軸に据え、都市経営を行ってまいりました。彼ら彼女らの夢と希望を後押しし、市民の皆さんと一緒に育んできた本市の強みに磨きをかけながら、多様な選択肢と居場所があり、チャレンジができる、そして、誰もが愛着と誇りを胸に「豊中で

暮らしている」「豊中出身」と語れるまちを創りあげていきます。

先人から受け継いできた素晴らしい豊中のまちは、いつも「人」が中心となり、財産となり、発展を遂げてきました。市民の皆さんお一人おひとりがまちの主役です。そんな皆さんとこれからも一緒に、ワンランク上のまちをめざし未来を切り拓いていく不退転の覚悟をもって、本年4月の市長選挙において厳正な審判を仰ぐことを決意いたしました。

議員の皆様方には、この間、私にお寄せいただきましたご支援に感謝を申しあげるとともに、40万市民の先頭に立ち責任をもって、豊中のさらなる発展・成長と市民の皆様の幸せの向上を実現することをお誓い申しあげまして、豊中市長選挙立候補に際しましての決意表明とさせていただきます。